

南さつま市坊津歴史資料センター輝津館 輝津館&坊津学園「海洋教育」事業

実施期間：平成27年10月1日（木）～平成28年2月15日（月）



【事業の内容・目的】

- 坊津の特徴的な自然環境である双剣石・リアス海岸の誕生をテーマに、講演会や芸術作品鑑賞、野外学習を実施し、坊津の海岸や日本列島と周辺の海の成り立ちや歴史・文化等について、自然史学・文化史学双方の視点から学ぶことを目的に実施しました。
- 坊津学園で行われる地域の海洋教育授業において、学生はもちろん一般の方も聴講可能な授業形式として、博物館ならではの様々な手法による学習プログラムを提供し、身近な題材を通じて地域の海を体験的に学ぶ場を作ること目的に実施しました。
- 坊津の海産物を活かした寿司づくり、海の食文化体験教室を実施し、海産物を素材とした日本の食文化やその世界的な波及、海産物の生産・流通・消費、海洋資源保護等について学ぶことを目的に実施しました。

活動の様子

1. 海の授業 in 坊津

「坊津のシンボル双剣石・リアス海岸の謎にせまる！！」

(A) 坊津の海岸・双剣石のひみつーリアス海岸の自然史・双剣石誕生の謎ー

【開催日時】平成27年11月14日（土） 8：40～11：40

【開催場所】南さつま市坊津歴史資料センター輝津館ピロティ・塩ヶ浦海岸・南さつま市立坊津学園ランチルーム

【参加者数】130名

【活動内容・目的】

●海岸での野外学習や講演会を通じて、坊津の双剣石・リアス海岸のかたちとその成り立ちを自然史学的な視点から学習し、地域の海岸地形の成り立ち、海洋国家日本のかたち、日本列島と周辺の海の成り立ち、地質構造、海水などによる浸食作用等について学ぶことを目的に実施しました。

(B) 坊津双剣石と人々の関わりー双剣石をめぐる歴史と文化ー

【開催日時】平成27年12月9日（水） 14：00～15：05

【開催場所】南さつま市立坊津学園ランチルーム

【参加者数】122名

【活動内容・目的】

●郷土坊津の海岸風景にまつわる歴史・文化について、文化史的な視点から学習し、海岸景勝地としての坊津が持つ景観価値を学ぶことを目的に実施しました。

●海岸景勝を題材とした芸術作品等についての学習を通じて、芸術の視点から海岸景勝を楽しむ文化に理解を深めること、作品鑑賞のポイント等を学ぶこと、また、漁業風景を鑑賞する文化について知ることを目的に実施しました。

(A) 坊津の海岸・双剣石のひみつーリアス海岸の自然史・双剣石誕生の謎ー



坊津の塩ヶ浦海岸



授業説明



南さつま市坊津町の塩ヶ浦海岸で、鹿児島大学の大木公彦名誉教授（海洋地質学）を講師に、48名（坊津学園8・9年生及び一般参加者等）が、フィールドワーク、体験学習を行いました。海へ出かけて、実際の海岸地形や海岸に分布している岩石や礫、海底で形成された地層（泥岩と砂岩の互層）などにふれることによって、地域の海岸環境の特色である双剣石やリアス海岸のなりたちについて理解を深めました。



海岸でのフィールドワークに引き続き、鹿児島大学の大木公彦名誉教授（海洋地質学）を講師に、坊津学園ランチルームで授業（講演会）を行い、130名（坊津学園5年生～9年生及び一般参加者等）が参加しました。

授業では、双剣石や坊津のリアス海岸の話から、深海の堆積物の隆起、東シナ海の誕生など、海に囲まれた日本列島がどのように形成されたのかまで話題が及び、「双剣石から坊津と日本の成り立ちがわかる」という内容の濃い授業になりました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



授業の中では、古生代～中生代の海に生息していた海洋古生物アンモナイトの化石などの実物資料も登場し、参加者は、それぞれ興味深く資料に手を触れ、太古の海に想いを馳せていました。また、地名カードを持った子どもたちに、東シナ海の誕生にまつわる「大陸」・「甌島」・「双剣石」3者の動きを実演してもらい、参加者が普段から目している東シナ海の成り立ちについて学びました。

(B) 坊津双剣石と人々の関わりー双剣石をめぐる歴史と文化ー



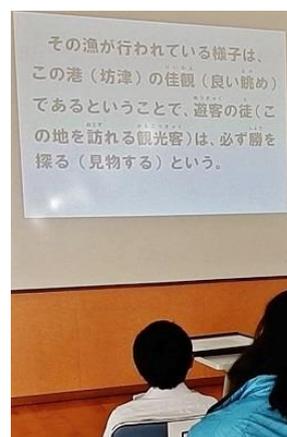
坊津学園ランチルーム



事前説明



「海」からひもとく坊津の歴史・文化！」として、授業は、海上交流が盛んだった港町坊津ならではのエピソード、双剣石の名前の由来「双剣＝2本の剣」（唐人が名づけたという伝説を持つ）の話からスタートしました。授業の前段では、海の「地名」というテーマで、坊津の泊浦の沖に浮かぶ瀬（岩礁）「かまぼこ瀬」「双子瀬」「山瀬」の名前を当てるクイズなども行い、昔の人々が、身近な海の入江や岩・島などに、様々な名前を付けてきたことを学びました。また、すぐれた景観価値を持つ、坊津の双剣石付近の海岸地形が、国指定名勝「坊津」として国の文化財に指定されていることも学びました。



授業の中盤では、古くから人々が海岸景勝に親しんできた事例として、八田知紀（19世紀の薩摩出身の歌人）が詠んだ坊津双剣石の和歌や、江戸時代の浮世絵師、歌川広重が描いた六十余州名所図会の「薩摩 坊ノ浦 双剣石」を挙げ、これらの和歌・浮世絵を紹介した双剣石クリアファイルなどを活用し、海を歌に詠む文化・海を絵に描く文化について学びました。

また、漁業観光の事例として、江戸時代の坊津では、湾を利用した漁の様子を見物する旅客がいたという、薩摩藩の地誌『三国名勝図会』から漁業風景を鑑賞する文化について紹介し、海を生業とした人々の暮らしや歴史について学びました。



授業の途中では、浮世絵の複製資料も登場し、子どもたちも興味深く手に取って目近で鑑賞していました。こうした資料の鑑賞や授業内容を通して、美しい海に囲まれ、長大な海岸線を持っている我が国において、津々浦々の海岸景勝を鑑賞し、愛で称える文化が育まれてきたことに理解を深めました。授業のまとめでは、こうした文化の継承に欠かせない、美しい海を守っていくことの必要性にも気付く機会となりました。

【参加者の声】

- 「海」に双剣石の謎を解き明かす鍵があるということを知った。
- 海底が隆起することについて初めて知った。また、海底が少しずつ動いていることを知って驚いた。「海」が地層を作る重要な役目をしていることが分かった。
- 「海」を歌に詠む、「海」を絵に描くことなどが昔からなされていたことに驚いた。
- いろいろな「海の顔」を知ることができた。
- 面白い名前の島があり、興味がわいた。瀬の名前をもっと知りたくなった。
- 坊津の綺麗な「海」を守っていきたく思った。

2. 海の食文化体験教室「開店！寿司処“坊津学園”」

【開催日時】平成28年1月14日（木） 14:05～16:05

【開催場所】南さつま市立坊津学園ランチルーム・調理室

【参加者数】19人

【活動内容・目的】

- 海の食文化にまつわる講話の後、寿司づくり体験、試食体験を実施。
- 海の食材やその調理法、栄養学上の知識等について学ぶこと目的とします。
- 日本の食文化における、海産物の重要性を認識し、海洋国家日本の食文化が、世界で注目されていることなどについて知ることを目的とします。
- 坊津の海産物の生産、流通、消費や、それに携わる人々、海洋資源保護等について学ぶことを目的とします。



坊津学園ランチルーム・調理室



授業導入部の講話



この日の授業は、講師の宮田勝英さん・宮田勝一さんをはじめ、坊津学園7年生及び関係者、19名が参加しました。

授業導入部の講話では、今回使用する坊津の海産物の特徴や栄養などをはじめ、寿司や鰹節など、日本から世界へ広がる海の食文化、海産物の「地産地消」、「海洋資源の計画的な利用」、「育てる漁業」といった海洋資源保護の取り組み等について、一本釣りの坊津双剣鯖や、坊津でのクルマエビ養殖の事例などを交えて学びました。

講話の後は、調理室に移動して、講師が披露する寿司づくりの“プロの技”を、間近で見学し、日本の食文化と海の幸との深い関係性を学びました。



講師の見事な技を見た後は、子どもたちも寿司づくりにチャレンジ！皆でミズイカ（アオリイカ）の手まり寿司と、坊津で「アナゴ」と呼ばれるミミガイ科の貝の軍艦巻きをつくりました。子どもたちは、ラップを利用して手まり寿司をつくり、軍艦巻きの海苔をパリッと綺麗に巻こうと、熱心に作業を行っていました。海苔（アオサ）を入れた椀に汁をつぎ、吸物もつくりました。授業の途中では、鰹節・昆布のだしのとり方も紹介し、地域で親しまれている海の幸について学びました。



出来上がった寿司は、それぞれの感性で美しく盛り付けました。地元海産物を使用した本日のメニュー、「双剣鯖（ゴマサバ）の握り寿司」・「車海老の握り寿司」・「ミズイカ（アオリイカ）の手まり寿司」・「アナゴ（ミミガイ科の貝）の軍艦巻き」・「海苔（アオサ）の吸物」、計5品が完成。故郷の豊かな海の恵みと水産業等に携わる人々の存在を再確認すると共に感謝しながら、坊津の海の幸の素晴らしさを食を通じて実感していただきました。

【参加者の声】

- 鯖には色々な栄養があることを学んだ。魚のことについてもっと知りたくなった。
- 漁業のことについて学ぶことができた。
- 坊津でこんなに美味しい魚が捕れることを、改めてうれしく思った。
- 鰹節や昆布のだしのことについて知ることができた。
- 船に乗って釣りをしてみたいと思った。
- 海産物の加工食品や料理の教室を開催して欲しい。

【事業全体のまとめ】

海洋地質学の専門家（大学教授）や、プロの料理人などの外部講師を招聘するなど、これまでにない事業規模のもと自然科学と人文・社会科学分野の双方から地域の海の歴史や文化・環境を学ぶ機会を提供できた。また、博物館と学校の協働による野外体験学習や寿司づくり・試食体験など、参加者の記憶に残る体験型の授業を実施できた。その結果、坊津のリアス海岸にまつわる自然史や文化史、美しい海岸景勝を守っていくことの大切さ、地元の海産物や漁業、海の食文化、海洋資源保護の取り組みについて学ぶなど、多様な切り口から地域資源を活用した地域ならではの「海の学び」を実施することが出来た。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 南さつま市立坊津学園	博学連携による地域の海を学ぶ授業実施
2. 海洋地質学の専門家（大学名やポスト、氏名）※ご記入ください	連携した事業実施による内容の深まりと分野の広がり
3. その他外部講師（大学名やポスト、氏名）※ご記入ください	連携した事業実施による内容の深まりと分野の広がり
4. プロの料理人（名前と店名など）	食を切り口とした体験的な学習機会の提供

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 南さつま市お知らせ版 2015年11月号	「坊津双剣石についての公開事業を開催」 平成27年11月19日
2. 南日本新聞（朝刊）	「双剣石がテーマの講演会」 平成27年11月30日
3. 南日本新聞（朝刊）	「双剣石のクリアファイルを贈呈」 平成28年1月16日
4. 南日本新聞（朝刊）	「坊津学園中生 すし作り体験」 平成28年1月19日
5. KKB 鹿児島放送（「かごしま ときめき TV」番組ニュースコーナー）	「海の食文化体験教室」 平成28年2月11日

以上